

## 編集方針にむけて (1)

文責 奥沢 邦成

本誌も八号を数え、発刊以来二年近くの月日を迎えた。その間、雑誌そのものも大部変わったし、編集スタッフの顔ぶれも豊富になつてきた。総じて評するなら、良くなりつつあると言えるであろう。

こうした移り変わりの中で、本誌の編集方針がこしばらくの間、内部的に論議されていく。暗中模索の状態から、いくつかの指針らしきものを手掛りに編集を進めてきた次第であるが、本誌の内容充実を図るという今後の課題と取り組むうえで、明確な編集方針の提示が必要となつてきた。そこには、編集スタッフが多少とも増えたこと、同時に編集部の主體的諸活動が徐々になされるようになってきたこと(雑誌の性格づけ)が背景にあるだろう。それはまた、これまでの活動が少数のスタッフにより内的性格をもつていたことや、場あたりの

活動に留まつていた状態からの脱皮を物語るものでもあろう。

いずれにしろ、編集方針の提示が課題とされ、そのための討議を継続していくことに意見が一致した。そして編集方針討議のために、まず発足以来編集に携つてきたほくが、これまでの経過を踏まえて意図されたことや目指されたこと、また必要に応じて話し合われたこと等を参考資料としてまとめることになつた。同時に、江口さんが方針作成のための資料メモを提出した。参考のために次に掲載しておく。

### △資料・1▽

雑誌の目的 運動の促進をはかる。ここで運動とは、アナキズム運動そのものをいうより、むしろアナキズムの理念での大衆運動を考えたい。

雑誌が運動形成に果しうる機能としては次

のものが考えら減る。

1. 現実の問題についての論評・アピール 方向性の提示、問題の提起、批判
2. 運動相互間の経験交流 具体的な運動についてのニュース、ドキュメント、論評(国の内外を問わず)
3. 運動を質的に高めるための理論的寄与 現状の把握(現状分析)とそれにもとづく戦略の設定に集約される理論的寄与(現状分析、再検討の対象(省略)この部門では外国文献の紹介も重視する)
4. 啓蒙活動 アナキズム理解のための初歩的な解説
5. 雑誌発行参加者の自己教育 執筆、研究会を通じて、参加者を質的に高める。技術的な問題

1. 以上にとりあげた問題のうち、当面何を重点におくかを定めること(このためには一応の現状分析をやる必要あり)

2. あらかじめテーマと執筆者を用意して、長期的な備えをすること。

3. 研究会を行ない、その成果をのせてゆく。

……これまで文章化されることなく、必要に応じて、その時々話合われてきたこと、考えてきたことを次に箇条書きにまとめ、今後の編集方針のため素材としたい。

1. 息の長い雑誌 厳密には二つの側面がある。一つは雑誌発行の経済的側面であり、他の一つは、思想内容に関する側面である。経済的側面については、われわれが一つの定期雑誌を発行・維持していくための経済的、人的、その他それに関連する主体的力量を形成すること。そして、そうした活動の蓄積という点を重視したい。

2. 思想内容のせいといつばいの、ぎりぎりの提示 われわれが現在具有している思想内容を、それがどのようなレベルのものであっても、必要なテーマ領域に関しては逐次ギリギリの線で言い切り、提示し、批判と検証にさらすこと。

3. 現実との接点を設ける われわれの現状分析の弱さに対し、常に現状どの接点を意識的に提起し、積極的に取り組んでいく。

4. 思想内容の蓄積 問題とその追求を

明示し、批判・検証の場として、テーマ一つひとつをねばり強く追求し、その過程を蓄積していく。雑誌の継続性はそうした活動を支えることになる。

5. われわれは現実への鋭い感性を育て、有効な理論を構築するために、意欲的に幅広いテーマと執筆者、そして多くの可能性を提示しうる場としたい。従って、整合性よりは、動きあるものにしたしたい。

資料の提出だけで討議の段階には至つたないが、気のついたことを補足しておこう。

その一つは、編集方針作成の提案があったとき、その必要性の了解とともに、既存の編集方針という枠組みに対する嫌悪を禁じ得なかつたということである。それは、応々にして優等生の作文を思わせるものではなく、編集に携わる現在のわれわれの志向を容れ得る表現形式ではない、少なくとも充分なものではないといった感覚があった。そうした気持ちも手伝つてまとめあげたものが後者である。そこで意図されたことがどのような形で方針に反映されるかはともあれ、いくつかの付帯作業を内包しつつ、方針作成の共同討議は徹底的に追求する必要があると考えている。それは多く

の労働と時間を割く必要があるし、その価値もある。

他方、きわめて現実的、切実な問題として次の点に自戒を要すると思う。それは、これまでの活動は物理的・形式的に本誌を作りあげてきたが、内容の充実に集約されている今後の課題に対して、これまでの活動をどう批判しきれるのか。それは企画について、執筆者について、また執筆を担当することにおいて、総点検しなくてはならないだろう。それは自覚されて不十分さに対し、自覚されない点、安易に流れている部分こそもっとも致命的であると考えるからであり、もちろんこのことは方針に結びついていく。

最後に本誌が形式的には日本アナキズム研究センターの発行となつていくことに關して、早い時期に分離することが必要である。発刊およびその後も研究センターに負うところ大であったが、現在ではもはや名目だけになつていく。

× × ×

▽フリー号の消息についてはほとんど報じられることもなく、マスコミによる今年の原水爆禁止運動の報道と敗戦記念日に関する報道は終りを告げたようだ。ところで、天皇制は戦後どのように変ったのだろうか。支配権力からの攻勢は、皇太子の訪沖、天皇の訪米、元号問題そして三木「自民党総裁」の8・15靖国参拝という形で矢つぎばやに行なわれ、また天皇制に関する様々の論議を許容するという形で、出るべき議論を出し尽させてそれを受けて立つ（あるいはソフトに管理する）だけの自信を支配権力が持ちつつあるのは、抽象的な「制度」としては無傷で戦後を過した天皇制が、支配の機構として実質的な復権をほぼ完了したからではないだろうか。それに比べて私たちの運動と天皇制に対する認識の弱さを本号の特集は示している。天皇制が私たちの自由への志向を阻害するものである限り私たちはこの弱さを克服しなければならぬ。読者の方々に御意見・御批判をいただきたい、一歩づつでも前進して行きたいと思っ

ている。(けい)

▽原稿〆切日からややあつて、事件が続出した観がある。思想的には脳髄を穿つものはなにひとつとしてないが七月十九日の道警中枢爆破に名乗りあげた「東アジア反日武装戦線」、八月に入つて間もなくクアラ Lumpur の獄中同志奪還を貫徹した「アラブ赤軍」、前後して東京三ヶ所同時爆破のまたまた「東アジア反日武装戦線」。手をはたいてばかりいられない。勢いづくのは決して悪い傾向ではないが、そんなことやつたつて革命の本質にはいっこうに近づきはしないのだという思想的な歯止めを明らかにしなくてはならないのだ。もちろん行動で対応することなくして机上論をこねくりまわしてもそれこそインテリのマスターベーションに墮してしまふわけだが、行動へと連絡するたしかなしえずとして提出する必要は依然として残っているといわなければならぬ。

つまり今、行動でできるだけの力量がないけれども批判はとりあえずできる、ということでは断じてなく、行動しないことの積極的な意味を思想的な営為によつて表明することこそ大切だ、ということにほかならない。アナキズム誌がそれを担いきつていくということはとてもできないが、それを担うだけの充実した企画と内容へと高めるために腰を入れなくては思っているところである。

正直いつて事件の痛快さと反比例して自分の内部の不快感は増長する。軽薄さの背中には常に最終的ななしとげなければならぬ深く、底知れない知的な課題がきまじめにはりついているのだ。北海道育ちのわが輩はこのクソ暑い内地の夏にいっこうなじめず、なりふりかまわず自重したい心境にたち至つてしまつてゐる。失礼。(G)

▽「良心的軍事費拒否の会」は、本誌六号掲載の「旧料金で電気代を払う会」と同種の市民運動の紹介である。今後この種の運動を紹介していくつもりであるが、ただ単に紹介で終わらせてしまふのではなく、この種のアナキズムを越え得る運動形態を備えた活動を、その原理・原則と現実との相克をそのままの形でとりあげることによつて、深くこの種の市民運動の質を探つていきたい。しかし、果たして真にアナキズムを越え得る運動者が、今後どの程度現出することができるだろうか？ (M)

『アナキズム』バックナンバー

七号

特集II組織論の変革をめぐって

組織にこめられた革命性

現代左翼運動の病相

B・Bと組織をめぐる断想

アナキストと自主管理

『オートジェスチオン』誌の特集より

△自治権▽奪還の里程

地域合同労組運動の形成を

クロンシュタット・イズヴェエスタ(三)

六号

特集IIコミュニティの再検討

地方自治体論・覚え書き

コミュニティへの期待

キブツのことパレスチナのこと広河隆一

住民運動の新しい質

——旧料金で電気代を払う会

戦後アナキズム運動史年表(五)

ある朝鮮人アナキストの伝記(三)

五号

特集II自治管理・労働者評議会

自治管理への問いかけ

評議会社会主義について

自治管理と社会

進行する「差別・分断」支配と

対決する労働者運動を

全国連合への批判的提言

早大図書館占拠闘争の軌跡

四号

地域合同労組の可能性を探る

救援組織の確立に向けて

子供達と共に

衛戍令下の韓国アナキズム運動

昔風の恋歌

外国のアナキスト・グループ(三)

ある朝鮮人アナキストの伝記(二)

金宗鎮伝

三号

特集II朝鮮人のアナキズム運動

朝鮮人によるアナキズム運動の

過去と現在

韓国の無政府主義運動の状況

韓国のアナキズム運動の現状

△石油危機▽以後とアナキスト

安田信治

江口 幹

A・メエステル

中河 友

奥沢邦成

編集部

他 三五〇円

地域労研

東京救済会

小堀恵美子

尾関 弘

P・グッドマン

李乙奎

他 二五〇円

宗世何

リヨンク

尾関 弘

の仕事

ドイツ労働者評議会の起源(下)

『リベロー』一・二号 残部有り。

他 二五〇円

定期購読のお願い

本誌の長期的かつ安定した発行体制のため、本誌の定期購読を訴えます。

購読料 年間(四号分・送料含) 一五〇〇円

振替 東京二一四一六一一

アナキズム編集委員会

発行日 アナキズム 八号

一九七五年九月十日

発行所 日本アナキズム研究センター

静岡県富士宮市杉田二五一

編集部 東京都千代田区神田神保町二の三二一

大同会館内 現代思想社気付

アナキズム編集委員会

尾関 弘

尾関 弘

尾関 弘

# Anarkismo

JAPANA CENTRO POR ESPLORO DE ANARKISMO

ĉe RYU-Buiĉirô  
Sugita 251, FUZINOMIYA,  
Shizuoka, Japanio.

n-ro 8

Septembro 1975

...ENHAVO...

Niajn aferojn en niajn manojn — La grupo de konsciencia rifuzo de por-armea imposto	...ŌNO-Miĉio	2
Anarkismo k Terorismo	...EGUĈI-Kan	9

—Kio estas la malorganizado de la Tenno-ismo?—

Noto pri la dio "Akicumikami"	...ŌSAŬA-Masamiĉi	16
Anarkistoj k la detruo de la Tenno-ismo — parolas k-do ŌSIMA-Ezaburo —		22
La tennoismo k la edukado	...CUĜI-Fumiaki	25
Kondamnu la murdiston, el kiu fontas ĉiuj malbonoj !	...MACUI-Fukju	30
Kio estas la esenco?	...OKUZAKI-Kenzo	32
<kunparolado> La tennoismo k ni	Redakcio	70

Nigra standardo sur la akvoprovizuro en Kubuco — Kibuco k anarkismo — Ĵiora Menoto (trad.FUJUKAŬA-Tecuo) 53

Biografio de unu koreo-anarkisto(4) — Biografio de Kim So Ching ...Li-Eulgyu 60

"Cronstadt Izvestias"(4) 67

Nuntempa situacio de la socia bonfarto 50

<<La Tajdo>> (marto julio)

..Notoj de la movado..Organoj..Gazet-artikoloj..Libroj...

<<Opinioj>> 37

1. Sentualeta vizaĝo de la Vjetnama liberigo

2. Kritiko de filmo: "En mia juneco"

3. Recenzo: "La dialektiko de ludo k laboro"

4. La situacio k nia pozicio

5. La informo de SIC

Postskribo: pri la redakta principo

Red. 82

## 黒色戦線社

### 天皇制破壊への渦動

埴谷雄高・大島英三郎ほか 300円

### 難波大助大逆事件

虎ノ門で皇太子（現天皇）を狙撃 900円

### 何が私をかうさせたか

金子ふみ子獄中手記／埴谷雄高跋 2000円

### 反逆者の牢獄手記

大杉栄・朴烈ほか10氏 200円

### 日本無政府主義運動史 第一編

石川三四郎ほか3氏 350円

### 自治民範（全）

権藤成卿著作集／第1巻 3000円

### 農村自救論・日本農制史談

権藤成卿著作集／第2巻 3000円

### 労働運動 《復刻》（新聞版）

第1～4次／大杉栄ほか編集発行 5000円

### 労働運動 《復刻》（雑誌版）

第5次／近藤憲二ほか編集発行 [近刊]

### 大杉栄・伊藤野枝追悼号

『労働運動』大正13年3月号復刻 400円

### ディナミック

石川三四郎個人紙復刻 3000円

### ロシア革命の批判

アレクサンドル・ベルクマン 200円

### アナキスト革命

ジョージ・パレット 150円

### 無政府主義組織論

エンリコ・マラテスタ 100円

群馬県伊勢崎市中町和田 大島英三郎方  
電話0270(24)0776 振替／宇都宮11015

資料室・共学読書会室 東京都大田区西蒲田7-61-8 エンリコビル4階  
電話03(735)1246 毎月第2・4日曜午後1時より共学読書会（公開）

## 黒の手帖

第19号

### —— 目次 ——

自由クラブの時代	大沢正道	1
「大杉栄の旅」小感(4)	秋山清	27
グスタフ・ランダウアー	C. ウォード	36
「共同体」批判論・序説	奥沢邦成	44
太陽について	菅田正昭	49
ナショナリズムと文化(2)	R. ロッカー	56
	大沢正道訳	
	定価	300円(送料55円)

## 黒の手帖社

東京都新宿区北山伏町33 大沢方

振替・東京102465

2号分前納 600円

4号分前納 1200円

(いずれも送料含)

仏陀を背負いて街頭へ、農漁村へ!

## 妹尾義郎日記

全七巻

★第1巻 明治42年～大正7年 解説・稲垣真美  
旧制一高病氣中退に始まる長く苦しい闘病生活を克服し、法華信仰に目覚めるまでの苦闘と徳福。生き生きと描かれる日々は、明治の青春の鮮烈な断面。

★第2巻 大正8年～大正13年 解説・中濃教育  
田中哲学から本多日生と、日蓮人脈深く踏索し仏教的人間主義に覚醒してゆく妹尾は、国粹の日蓮主義の波に揉まれ、激動し、苦悩する。

★第3巻 大正14年～昭和5年 解説・中濃教育  
あらゆる思想・実践が灼熱した昭和初年代は、(増城の中の時代)である。妹尾もまた、仏教的人間主義から社会主義の人間主義へ、啓蒙家から実践者へと大きく転回する。

★第4巻 昭和6年～昭和11年 解説・林 豊法  
仏陀を背負いて街頭へ、農漁村へ! 新興仏教青年同盟の結成から、被弾検挙まで。妹尾義郎の高く鮮烈な光芒のうちに記された苛酷な時代と人間の裏幕。

★第5巻 昭和14年～昭和20年 解説・家永三郎  
大学ノート10冊に及ぶ妹尾日記は資料的にも貴重だが、これは戦争下という極限状況における秀れた良心の赤裸々な心理ドラマであり、不毛な「転向論」を止揚する思想劇である。

★第6巻 昭和21年～昭和28年 解説・壬生順順  
仏社同結成から妹尾は戦後平和運動に立上る。平和推進、日中友好、日鮮友好運動と多彩な活躍期。

★第7巻 昭和29年～昭和36年 解説者座談会  
過労のため再び療養生活へ。幾多の艱難を潜った妹尾の透徹した思想は、近代日本人の稀有な到達である

## 国書刊行会

東京都豊島区巢鴨3-5-18

〒170 電話03-917-8287

# 『青鞥』の女たち

〔9月末刊〕

井手文子著

「女の解放」を目ざして『青鞥』に集まってきた女たち。その「新しい女」の愛と闘いの苦悩を、平塚らいてう・伊藤野枝を中心として描き出した注目の書 予価1500円

# 蜂起と夢と伝説

田村正敏著

全共闘はどこへ行ったのか。新左翼総体の崩壊的狀況のなかで、いま根源から問わなければならないのは何か。そして、僕たちが明日みる夢は？ 〈最新刊〉 1200円

# 大杉栄書簡集

飛鳥井雅道解説

ナイーブな感性と果敢な行動を合わせ持ち、それゆえ権力の魔手に斃れねばならなかった革命家大杉栄の軌跡と豊かな可能性をいきいきと伝える書簡集 1500円

# 日本無政府共産党

相沢尚夫他著

権力を廃絶し、真の共産主義を建設するカギはなににか——ファシズムに抗し、旧来のレーニン主義とアナキズムを共に超克しようとした幻の〈党〉の理論と実践 1500円

# 自由聯合・自由聯合新聞(復刻版)

『自由聯合・自由聯合新聞』復刻版刊行会刊  
小松隆二解説 大正末期から昭和10年に至る激動の時代に発行された日本アナキズム運動史解明に不可欠な資料の完全復刻 B4判486頁上製クロス装函入 12000円

アナキズム 第八号 一九七五年九月一〇日発行(年四回季刊)

# アナキズムとエスペラント

向井 孝著

# 山鹿泰治 人とその生涯

六〇〇円

草創期のエスペラント運動、そして大杉栄との出会いを通じて日本のアナキズム運動にユニークな足跡を残した山鹿泰治の初の評伝。大杉を助けて・中国のアナキズム運動・日本アナキスト連盟と共に他。

東京都板橋区赤塚2-35-9 白樺ハウス10号

青蛾房

(取扱い書)

# 高群逸枝 評論シリーズ

女性史研究会編集・発行

婦人戦線に立つ I (品切れ) 二五〇円

婦人戦線に立つ II 三〇〇円

婦人運動の実践題目 三二〇円

婦人運動の単一体系 三二〇円

大正末から昭和初期にかけて、アナ・ボル論争の渦中で執筆された『アナキズム』“女”“恋愛”そして婦人運動論など、高群逸枝に欠くことのできない初期評論集の集大成。

# 小川正夫評論集

# 性とアナキズム

六〇〇円

同書刊行会編集・発行

定価 三五〇円